

令和6年度 年間授業計画

東京都立科学技術高等学校

教科	科目	
家庭	家庭基礎	
学年	単位数	
2学年	2単位	
教科担当者		
相原幸子 内山陽子 吉岡百合子		
使用教科書		
「家基707図説家庭基礎」		

教科の目標
家族や生活の営みを人の一生とのかかわりの中でとらえ、家族や家庭生活のありかた、子どもと高齢者の生活と福祉、生活の自立のための衣食住や消費生活・環境などの基礎的な知識・技術を身につける。 生活課題を主体的に解決し、生活の充実向上をはかる力と実践的な態度を身につける。

科目の目標		
【知 識 及 び 技 能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	単元名：自分らしい生き方と家族 【知識・技能】 ・ライフステージごとの発達課題や、ライフイベントについて理解する。 ・青年期の課題である生活的・経済的・精神的・性的自立について理解し、自覚できるようにする。 ・時代とともに変化する家族・家庭について学習し、現在の家族の抱える課題などを多角的に理解する。 【思考・判断・表現】 ・職業につく意義や多様化する就業形態について理解、自分の将来の仕事について考えようとする。 ・自立へむけて課題を発見し、将来の発達課題ともかかわらせ自身の将来について思考・判断することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・自己分析をして、自分のことを紹介することができる。 ・将来の自分がつくる家族について考えようとしている。	・指導事項 1節 生涯発達する人生 2節 これからの人生をデザインする 3節 青年期を生きる 4節 生活を支える労働 5節 生活時間から見えてくるもの 6節 男女共同参画社会をめざして 7節 現代の家族 8節 家族・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題 9節 家族に関する法律の理念と変化 10節 家族にかかわる法律 ・教材 ・プリント ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・各ライフステージごとの発達課題について理解し、それぞれの発達段階で起こり得るライフイベントと関連させて理解することができる。 ・4つの自立について理解し、自分らしさは一人ひとり異なることを理解できる。 【思考・判断・表現】 ・家事労働について話合うことで、現在の自分について理解し、他者の意見を聞き、課題が見つければ改善することを考えられる。 ・自分自身の生活を見つめ、自立へむけて課題を発見し、将来の発達課題ともかかわらせ自身の将来について思考・判断することができる。 ・自分にとっての家族について考えられる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・自己分析をして、周りの人に自分のことを紹介することができる。 ・人により家族と思う範囲や家族形態が異なることについてわかろうとしている。将来の自分がつくる家族について考えようとしている。 ・法律と自分のかかわりについて理解し、成年年齢の変更や理由、権利と責任などについて、考えようとしている。	○	○	○	
	単元名：子どもとかかわる 【知識・技能】 ・妊娠の成立から誕生までを理解することにより、その重要性を認識する。 ・子どもの身体の成長について、大まかな流れと特徴を学ぶ。 ・子どものものの見方・感じ方には子ども独特の世界があることを理解する。 ・手縫いで簡単な幼児のおもちゃの製作ができる。 (はさめるマスコット) 【思考・判断・表現】 ・子どもの食生活・衣生活について理解を深める。 ・遊びの影響や種類を理解し、今日の課題解決に向けた行動を挙げることができるようにする。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・子どもとの交流を通して、遊びが豊かになるよう工夫することができるようにする。 ・家庭保育と集団保育、子育てのための国や地域の社会的支援について理解する。	・指導事項 1節 子どもの誕生 2節 からだの発達 3節 運動機能の発達と知的発達 4節 かかわりのなかの発達 5節 子どもの生活習慣と健康 6節 子どもの食生活・衣生活 7節 子どもと遊び 8節 親になることを考えよう 9節 すこやかに育つ環境と支援 10節 子どもを守る法律・制度 妊婦体験 はさめるマスコット製作 ・教材 ・妊婦体験セット ・プリント ・新生児人形 ・乳児・幼児の動画 ・は冷めるマスコット見本 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・妊娠の成立から誕生までを理解することにより、その重要性を認識することができる。 ・妊婦体験を通して、妊婦の体の特徴を理解する。 ・誕生から幼児期までの子どものからだの発達について理解する。 ・運動機能の発達と知的発達について理解できる。 ・幼児のおもちゃ（は冷めるマスコット）を製作する。 【思考・判断・表現】 ・発達段階に応じた子どもの基本的生活習慣や社会的な生活習慣とその重要性について理解できる。 ・子どもの発達に対し、どのような関わり方がよいか考えることができる。 ・現在の子育ての環境や地域社会や国の支援策や課題などについて、情報を収集し、まとめることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・妊婦体験を通して、妊婦への接し方について考え行動しようとする。 ・子どもの発達段階を考えたおもちゃを作成しようとしている。 ・保育実習などにおいて、子どもと関わろうとしている。 ・自分の現在・将来と結びつけながら、考え、学習しようとしている。	○	○	○	
	単元名：高齢者とかかわる 【知識・技能】 ・高齢社会の現状を理解するとともに、高齢者への理解を深める。 【思考・判断・表現】 ・ボディメカニクスについて理解し介護の実態を把握している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・高齢者体験をすることで、高齢期の過ごし方について自身のこと、家族のことと結びつけながら考えようとしている。	・指導事項 1節 高齢社会に生きる 2節 高齢者を知る 3節 高齢者のサポートと介護の心 4節 高齢社会を支えるしくみ 高齢者体験 ・教材 ・プリント ・高齢者体験セット ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・加齢に伴う心身の変化や特徴について理解し、その変化については個人差があることも理解できる。 ・高齢者にとって家族とはどのような存在なのか、高齢者の経済状況や社会参加状況などについて理解を深めることができる。 【思考・判断・表現】 ・ボディメカニクスについて理解し、介助実習を行っている。 ・認知症の症状と接し方について理解し、相手のことを理解しようとし、支えられる側から、支える側になっていくようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・高齢者体験をすることで、高齢期の過ごし方について自身のこと、家族のことと結びつけながら考えようとしている。	○	○	○	
	単元名：衣生活をつくる ・基礎縫い（手縫い）の実習を通して、技術を習得する。	・指導事項 基礎縫い練習 基礎縫いテスト ・教材 ・プリント ・基礎縫い動画 ・基礎縫い見本 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 なみ縫い・本返し縫い・まつり縫い・ボタン付けができる。	○			
	定期考查			○	○		

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
2 学 期	単元名：衣生活をつくる 【知識・技能】 ・衣服の機能を理解する。 ・繊維の種類と特徴について理解する。 ・糸と布の種類・構造について理解する。 【思考・判断・表現】 ・衣服素材の性能について理解し、衣服の入手から処分まで、衣生活を計画的に考えられるようになる。 ・衣服を購入する際の表示の見方がわかる。 ・湿式洗濯・乾式洗濯などの洗濯の方法や注意点を理解する。 ・家庭洗濯の方法とポイントを理解する。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・被服製作実習に意欲的に取り組んでいる。	・指導事項 1節 人と衣服のかかわり 2節 健康で安全な衣服 3節 衣服素材の種類と特徴 4節 衣服素材の性能と改善 5節 衣生活の計画と購入 6節 衣服の管理 7節 家庭での洗濯・保管8節 持続可能な衣生活をつくる ・スウェーデン刺繍の製作 ・教材 ・プリント ・繊維、織物の映像 ・衣類の手入れの動画 ・スウェーデン刺繍の見本 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・自然環境と衣服のかかわり、社会環境と衣服の関係から、衣服が持つ機能を理解することができる。 ・繊維の種類と特徴と用途が理解できる。 ・織物・編物の種類や構造が理解できる。 ・湿式洗濯・乾式洗濯などの洗濯の種類や、洗剤のはたらきについて理解できる。 ・アイロンを適切にかけることができる。 ・スウェーデン刺繍の製作ができる。 【思考・判断・表現】 ・快適な衣服とはどのような着心地か考えられる。 ・衣服の購入の際、自分のサイズを把握し、表示から必要な情報を読み取ることができる。 ・衣服材料・衣服管理・整理についての基礎的な知識を身につけ、衣服管理において適切な判断ができる。 ・アイロンを適切にかけることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・実験に積極的に参加しようとしている。 ・被服製作実習に意欲的に取り組んでいる。	○	○	○	32
	単元名：食生活をつくる 【知識・技能】 ・現代の食生活の傾向を理解し、健康的な食生活の必要性に気づく。 ・栄養とからだのつながりや栄養素と水のはたらきを理解する。 ・食品の旬や選択する際のポイント、食品の品質表示について理解する。 【思考・判断・表現】 ・食中毒の種類を学び、衛生的な管理に結びつける。 ・安全なものを食べるための取り組み、環境への取り組みを考える。 ・食事摂取基準を理解し、実際にバランスのよい食事計画につなげることができるようにする。 ・食事摂取基準や食品群別摂取量のめやすを考慮しながら、家族や状況にあわせて献立を作成できるようにする。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・調理実習を通して、調理技術を習得する。	・指導事項 1節 私たちの食生活と健康 2節～7節 5大栄養素（炭水化物・脂質・タンパク質・無機質・ビタミン） 8節 その他の食品 9節 食品の選択と表示 10節 食品の衛生 11節 食料自給率と食のグローバル化 12節 食の未来と環境への取り組み 13節 食事摂取基準 14節 食品群別摂取量のめやす 15節 献立作成 16節 調理の基本 調理実習・技能テスト（リンゴの皮むき・きゅうりの半月切り） 味覚実験 ・教材 ・プリント ・エプロン・三角巾等 ・成分表 ・調理実習動画 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・生活習慣病、摂食障害、月経異常などと食生活がかかわっていることを理解できる。 ・5大栄養素と水についての基礎的な知識を習得できる。 ・食中毒の種類や予防法等について理解できる。 ・栄養・食品に関する科学的な知識や調理の基礎的な技術を身につけ、それを実際の食生活に生かすことができる。 ・調理に関する基本的な「切る」「炒める」「ゆでる」「焼く」などの調理技術を身につけ、実際に調理ができるようになる。 【思考・判断・表現】 ・外食やコ食について理解を深めようとしている。 ・食品と栄養、調理との関係において、科学的な視点をもって、知識を深めようとしている。 ・衛生的な調理や食事管理ができるようになる。 ・栄養・食品に関する科学的な知識や調理の基礎的な技術を身につけ、それを実際の食生活に生かすことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・自分の現在の食生活を振り返り、課題を見つけ、改善にむけて積極的に取り組もうとしている。 ・食中毒の種類や予防法等について学び、衛生的な調理や食事管理ができるようになる。 ・食品添加物の種類やその使用の目的について理解し、安全性についても考えることができる。 ・調理実習においては、積極的に参加しようとしている。後片付けまできちんと行っている。 ・食事マナーを身につけ、楽しく食事することができる。	○	○	○	
	定期考査						

